

「天上の花園」エゾシカから守れ

雨竜沼湿原 ボランティア団体が奇策

「天上の花園」とも呼ばれる雨竜沼湿原(雨竜町)に、エゾシカによる高山植物の被害が深刻だ。特に被害に遭っているのが夏を黄色く彩るエゾカンゾウ。花やつぼみが食べられるため、開花から10日ほどで湿原から花が消える。地元のボランティア団体がこの夏、植生の保全へ奇策を練り出す。

高山植物の被害深刻

雨竜沼湿原には2015年ごろからエゾシカが侵入し始めた。道の結果、どの区域もほぼ食べられ、両年とも被害率は99%だった。環境・地質研究所が17年に調査に入り、18、19年の夏、4区域に分けた湿原に調査地点を設定

年7月から咲き始め、10日ごろに調査に入り、18、19年の夏、4区域に分けた湿原に調査地点を設定



昨年7月11日、エゾカンゾウとヒオウギアヤメが咲く木道

11日後、湿原テラス前の木道にはエゾカンゾウもヒオウギアヤメの花もなくなっていた

秘密兵器は激辛スプレー▷▷



調査した激辛スプレーを持つ佐々木純一さん＝雨竜町の自宅

見頃を迎えるが、ここ数年は咲き始めから食べられ、20日ごろに花は消えている。多年草なので翌年も花は咲くが、種子繁殖が出来ない期間が続けば個体数が減っていく可能性がある。同じく夏の

🔑 雨竜沼湿原

標高8500級の台地に広がる101・5秒の山岳型高層湿原帯(東西4km、南北2km)。大小170以上の「池塘(ちとう)」と呼ばれる沼が点在し、ペンケペタン川がうねるように蛇行する。6月から9月にかけて150種類を超える植物が咲き、7月には湿原の名にちなんだウリュウコウホネの黄色い花が池塘の水面に顔をのぞかす。暑寒別天売焼尻国定公園内にあり、2005年11月にラムサール条約の登録地になった。

湿原で代表的なナガボノワレモコウやコバギボウシの被害も深刻だ。

対策にはエゾシカの捕獲が有効だが、湿原の保全やワイズユース(賢明な利用)に取り組み「雨竜沼湿原を愛する会」(高島光雄会長)によると、エゾシカは夜中に湿原内に侵入しているという。もし、日中にエゾシカを確認出来ても、湿原は平地なため銃は危険だ。夏季は観光客も多く訪れている。さらに、自動車は、登山口までしか入れないため、捕獲できても搬出が難しい。

このため、愛する会は、エゾシカが嫌がる忌避剤をエゾカンゾウの花やつぼみに吹きかけることにした。忌避剤は副会長の佐々木純一さん(68)が市販の2種類の激辛トウガラシエキスを調査。吸った目に入ったりすると耐えられないほど強烈だが、自宅の庭のエゾカンゾウに試したところ、花の成長に影響はなかった。

噴霧は5区域(各25平方メートル)を設定し、道総研や町などの協力を得て本格的に開花が始まる今月4日に1回目を実施する。エキスの効果を絶やさないように定期的に噴霧を続け、今月下旬に噴霧していない周辺の被害状況と比較する。

佐々木さんは「エゾシカも生きるために採食する。エキスがエゾシカにどこまで効果があるかわからないが、共存と将来の湿原を守るためにいま出来ることをやりたい」と話している。